

少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

平成16年度 部誌・OB会報 No.3 1

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目 次

部 誌

- 1 部長挨拶
通信工学科 教授 高橋 信明
- 2 学生寄稿
49期 主将 房野 賢一
副将 ター・ミン・タイン
50期 主将 鳥居 悠希
副将 樋口 哲士
51期 熊田 智徳
坂東 正崇
52期 迫田 泰明
上田 桂裕
- 3 平成16年度部員名簿
- 4 平成16年度活動成果
- 5 各種大会個人成績
- 6 平成17年度年間活動計画
- 7 少林寺拳法部第50期政権編成表

奥平会報

- 1 巻頭言
奥平会会長 14期 中原 勇
- 2 平成16年奥平会活動概要
- 3 平成17年度奥平会活動予定
- 4 奥平会特別会費徴収結果および来年度以降の見通しについて
- 5 期連絡網について
- 6 連絡事項
- 7 奥平会会員名簿
別紙第1 平成16年度奥平会活動成果報告
別紙第2 平成16年度奥平会決算報告書
別紙第3 平成17年度奥平会活動予定
別紙第4 平成17年度奥平会予算案
別紙第5 奥平会収支と特別会計
別紙第6 奥平会名誉会員名簿
別 冊 奥平会員名簿

ご挨拶

部長 高橋 信明

合 掌

平成17年の新年に当たり、防衛大学校少林寺拳法部 OB・OG 諸兄弟におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、現役諸君は寒威に負けず日々の稽古に精進していることと思います。

昨年、平成16年は防衛大学校少林寺拳法部及び奥平会創立40周年をお祝いすることができ、大変嬉しい年でした。記念祝賀会は12月11日(土)の夕刻、ホテルグランドヒル市ヶ谷瑠璃(東)の間に少林寺拳法グループの宗由貴総裁を始め、全自衛隊少林寺拳法連盟会長、関東学生連盟委員長、東京少林寺連盟理事長、少林寺拳法連盟横須賀馬堀支部長等多くの来賓者にご臨席頂くと共に師範、歴代部長、奥平会名誉会長等をお招きして、OB・OG、現役学生を含め総勢百数十名で開催されました。主催者挨拶、来賓祝辞、現役及びOBによる奉納演武、防衛大学校少林寺拳法部40年の歴史を映すコンピュータプレゼンテーションと沢山の内容で盛り上がりました。最後は現役主将により万歳三唱で締めくくられ、盛会裡に閉会致しました。記念祝賀会の直前に日本武道館で開催されました第38回少林寺拳法全日本学生大会におきましては団体演武において2年ぶりの最優秀の栄誉に浴し、祝賀会にこの上ない花を添えることができました。これも現役学生の日々の努力もさることながら、師範や顧問のご指導、OB・OG 諸兄弟始め、関係各位の多くの方々のご支援があったればこそと、感謝申し上げます。

年が改まり、鳥居主将を中心とする50期政権は神田・頼富師範及び新保監督(29期)、鳥越(36期)・井田(42期)両副監督の指導の下、49期政権(主将:房野君)に劣らず、気合いを入れ張り切っています。部員も徐々に増え、来年度は総部員数70~80名が予想され、本年度に優る成績を期待しているところでありますので、これからも多くの方々の変わらぬ温かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

結 手

49期政権を終えて

49期 主将 房野 賢一

合掌

「人の質」我々49期はこの言葉をテーマにして、この1年間全力を尽くしてきた。なぜこのテーマにしたかと言えば、少林寺拳法の教えにあることは勿論であるが、校友会活動を通じて信頼される人間、信頼される部にしたいという思いが強かったからである。大会で成績を残すこと、体を鍛えることは非常に大切なことであると思う。しかし、それだけが目的になってしまって、武道として一番大切な部分である精神的な部分が欠けてしまっただけではないと感じた。

私が少林寺拳法を続けてきた中で強く感じたことはやはり「人のつながり」である。我々49期は5人という少ない人数ではあるが、助け合い、お互いを信じ、時には喧嘩をして衝突しながら4年間やってきた。心強い同期がいたからこそ、自分も現在に至っているのだということを痛感する。また、大会や合同練習会での他大学との交流も良い経験、そして仲間の輪を広げるチャンスとなった。「組み手主体」であるからこそお互いを理解しようという姿勢が生まれるのだと感じた。そして、46、47、48期の多くの先輩方から様々なことを学び、50、51、52期の多くの後輩に囲まれて毎日の修行を行い、また組織を運営すること、人の心をつかむことの難しさを学んだ。

50期以下に言いたい。お前たちにはたくさんの同期がいる。これは本当に素晴らしいことだと思う。人は簡単には集まらない。魅力があり、人間味があり、きついことはあってもそれに勝る喜び、楽しさがある、そんな組織に集まるのだと思う。少林寺拳法部の活動を自分たちが運営し、発展させていくことに自信と誇りを持ってほしい。そして、決しておごらずに、素直に、日々精進してほしい。

最後に、私たち49期を支えてくださった部長、監督、神田先生、頼富先生、顧問の方々、その他関係各位の方々に感謝申し上げ、50期以下が素晴らしい少林寺拳法生活を送れることを祈願して私の挨拶とさせていただきます。

結手

忘れられぬ思い出

49期 副将 ター・ミン・タイン

合掌

少林寺拳法部を引退してから体が硬くなり、体力もおちた。しかし、一つのこととは5年後、10年後も変わらない。それは少林寺拳法部での思い出である。この4年間を振り返ってみると、今までやってきた少林寺拳法のことを思い浮かぶ。つらいこと、きついことがあって、楽しいこと、うれしくて泣いたこともあった。いつも私と一緒に頑張っていた同期、房野・西川・中山・永田に感謝する。本当にありがとう。同期がいないなら、たぶん私は少林寺拳法を好きになることはできないだろう。

ところで、49期政権は“人の質”の方針でやってきた。できるだけ多くの部員を増やして、楽しくかつ有意義な練習を行なってきた。そのことは下級生に伝わただろうか？私個人は同期への感謝の気持ち・先輩への感謝の気持ちを下級生に教えてきた。感謝の気持ちがないといくら練習してもうまくなれないと思う。上級生に感謝の気持ちがあるからこそ、一所懸命になってつらいことでも乗り越えようという気持ちになる。それで少林寺拳法を好きになってどんどん成長するのだと思う。

最後に、後輩に伝えたいことは一つ。己を信じて、楽しんで頑張れ!!!

結手

50期新政権の心構え

50期 主将 鳥居 悠希

合掌

我々防大少林寺拳法部は現在、49期政権が引退され50期9名、51期、52期はそれぞれ17名、総員43名で活動しています。今年度は杉本杯で好成績を残し、全日本学生大会では当時の49期政権をメンバーに加えずに、現政権である50期9名、そして51期3名で出場し、2年ぶりに最優秀も獲得しました。

このように、防大少林寺拳法部は新しい時代を迎えようとしています。現在の非常に良い流れを、新政権の50期はさらなる部の発展へと飛躍させていくことが使命であると考えます。来年度の53期新入部員は本気で30名を目指します。そのためにも、部の存在意義を高め、部員一同が防大少林寺拳法部に自信と誇りを持てるようにしなければなりません。日々の活動において、部員が心から少林寺拳法を好きになり、校友会活動を楽しめるような部を目指していきます。51期以下には、素直に何でも吸収しようとする心構えを持たせ、また、自ら進んで研究に励んでいく姿勢を作らせていきます。

50期における団体演武は全日本学生大会で最優秀を獲ったわけではありますが、その

感動を51期以下にも味わってもらいたいというのが新政権50期総員の願いです。そのためにも、決して妥協を許さない後輩指導を徹底して参ります。指導法に関しては常に問題意識を持ち、最良の方法を追求していきます。

また、後輩指導だけでなく、自らの鍛錬も怠らないようますますの向上を目指します。後輩が優秀な成績を残せるよう指導に力を入れることは、非常に重要ですが、自分自身も成長させ、各大会では団体演武だけでなく、他の種目においても防大の名を響かせることができるように精進して参ります。

最後に、50期全員で決定した「礼儀」という方針を忠実に守り、全員で後輩指導にあたり、新たな防大少林寺拳法部の歴史を作っていく所存です。

結手

進むべき道

50期 副将 樋口 哲士

合掌

私が少林寺拳法を始めてからはや3年が過ぎました。政権が47期・48期・49期と変わっても、私はただがむしゃらにその背中を追い続けるだけでした。そして今自分が政権となり、副将となり、後輩たちの前に立ち、一体自分が何をすべきかを自分自身に問いました。当然今までのように、示された道をただひたすらに進むということはできません。常に己に厳に、後輩たちを導き、苦しみや喜びの中で何かを伝えていかなければなりません。時には彼らも道に迷い、壁にぶつかり、苦悩することがあると思います。私はそんな後輩たちの進むべき道を照らす光となり、向かうところを明瞭に示し、彼らの支えになりたいと考えます。これから進む道は決してなだらかで歩きやすい道ではありません。険しく急なでこぼこ道であり、引き返したくなるような道であると思います。しかし私は一歩ずつでも確実に前に進み、彼らを引っ張って行こうと思います。

最後に部長、師範、監督、顧問、OBの方々、これからもあたたかいご支援・ご指導をお願いいたします。

結手

防衛大少林寺拳法部

51期 熊田 智徳

合掌

「どうして少林寺拳法に入ったの？」しばしば私はこのような問いを受ける。そのとき、決まって答えるのが「強くなりたかったから」という答えである。先日このような問いを受けた。「どうして少林寺拳法部を続けてるの？」その時、同じように答えた。「強くなりたから」しかし、答えた後『何故少林寺拳法でないといけないか』という疑問がわいた。感情として少林寺拳法部以外の校友会に入るつもりはない。だが、何故だろうか。強くなりただけであつたら、他の武道・スポーツもある。それらの選択肢ではなく少林寺拳法を選ぶ理由は何だろうか。

私は、それは人間関係のように思える。防大少林寺拳法部には濃密な人間関係がある。一緒に練習をしている同期、慕ってくれる後輩、そして導いてくれる先輩と様々な人間関係が交錯する中で、防大少林寺拳法部は一種の『自他共楽』を体現しているのではないだろうか。

結手

少林寺拳法部に入部して

51期 坂東 正崇

合掌

私は防衛大学校に入校し、初めから校友会は武道系に入部することまでは決めていたが、どの武道にするかまでは決めていなかった。そこで私が少林寺拳法部を選んだ理由は、相手を投げる柔法と、打撃である剛法の二つがあつたことであつた。

入部してから気付いたのだが、防衛大学校少林寺拳法部の練習は厳しいものであつた。高校時代何もしてなかつたため体力がなかつた私は、練習前になるとよく憂鬱になつていた。しかし道場に行くと、そこには私が尊敬する上級生がおり、どんなに辛いことがあろうとも常に共にやって来た同期がいた。彼らがそこに居てくれたおかげで、練習は厳しいけれども練習が嫌にはならなくなつてきた。

少林寺拳法部では、多くのことを学んだ。剛法や柔法だけではなく、感謝の念もまた学んだ。今、防衛大学校少林寺拳法部はとても恵まれていと思う。毎日の練習時間、防衛大学校という場所、多くの仲間、応援して下さるOBの方々、師範、部長、監督、顧問、上級生など、私たちに少林寺拳法を教えてくださいと多くの方々により、支えられている。私は、周りの支えて下さるの方々に感謝し、部のために、自分のために、これからも少林寺拳法を修行していこうと思う。

結手

私と少林寺拳法

52期 迫田 泰明

合掌

私は防衛大学校での校友会を、何か武道系のものにしようと考えていました。しかし、特別少林寺拳法についての知識があるわけでもなく、中国でやっている武術、という程度にしか考えていませんでした。けれども、実際に技をかけられたり練習を見学させてもらったり、演武のビデオを見、少林寺拳法とはどういうものなのかを徐々に知っていくにつれ、防大で少林寺拳法をやりたいという思いが強くなっていきました。

周りの人からは、きついとか苦しいとかいったマイナスのイメージしか聞かなかったし、実際厳しい面もありますが、どんなに苦しいことやきついこと、一人では乗り切れないようなことも、同期の仲間や上級生の支えがあれば乗り越えていける、ということを実感することができ、またその中で、自分も体力面や精神面で少しでも強くなれたのではないかと感じるとき、少林寺拳法部を選んで本当に正解だったと、心から思います。

結手

再び少林寺拳法の世界へ

52期 上田 桂裕

合掌

私は、小学校1年から6年まで道院で少林寺を習っていた。そのため入部当初から黒帯の資格をもっていた。しかし、中学・高校と6年間野球に打ち込んでいたため、技はほとんど覚えておらず、名ばかりの黒帯だった。そんな自分に恥ずかしさと悔しさを感じた。だから、現在私は同期と同じように白帯の初心の心で、なるべく早く帯の色に見合った実力をつけたいという気持ちで、教わったことをすべて吸収しようと心がけている。ただ、少林寺拳法の根本理念である修行を通した人間形成という面は忘れてはならないと思っている。私が再び少林寺拳法の世界に戻ろうと心に決めたのは、他でもなく道臣先生の教えが、幼かった私に多くの感銘を与え、これまでの私の生き方の基盤となってきたからだ。野球漬の毎日でも、欠かさず脚下照顧した。後輩ができて対等でいられた。結局、私は少林寺拳法を離れていなかったのだろう。今度は防衛大学校という舞台上、たくさんの仲間と共に汗を流し、よい人間になるため日々精進していきたい。

結手

平成 1 6 年度部員名簿

(平成 1 7 年 1 月 1 日現在)

期別	小隊	専攻	要員	氏名
49 期	243	国関	陸	中山 智晴
	311	情報	陸	西川 尚紀
	313	情報	陸	タ・ミン・タイン
	341	情報	海	房野 賢一
	431	応物	陸	永田 忠義
50 期	111	応化	海	鳥居 悠希
	111	情報	空	樋口 哲士
	121	情報	陸	山本 篤
	133	情報	海	牛嶋 敬幸
	211	機材	空	藤井 貫志
	212	国関	陸	松岡 晋
	232	国関	空	稲垣 孝洋
	211	機シス	海	山内 祐介
433	航宇	陸	砂原 正法	
51 期	121	土木	陸	岡本 剛史
	141	機材	陸	木村 和史
	213	機械	陸	加藤 僚
	212	機シス	陸	林 康平
	212	理工	共通	徳永 竜磨
	221	機シス	陸	坂東 正崇
	241	公共	陸	熊田 智徳
	311	人文	陸	寺田 浩昌
	321	通信	陸	稲葉 雄一
	321	地球科	空	増田 陽輔
	322	人文	陸	鬼塚 勇
	323	地球科	海	阿部 哲也
	332	応化	陸	窪田 雅之
	332	応物	海	中川 成輔
	332	通信	海	石川 貴之
343	人文	海	島原 佑太	
441	電子	空	養田 智宏	

52 期	131	理工	共通	藤平 明德
	141	理工	共通	小林 弘典
	143	理工	共通	橘 知恵子
	211	理工	共通	扇 直人
	213	理工	共通	棟尾 英典
	213	理工	共通	吉武 直洋
	223	理工	共通	大畑 成平
	223	理工	共通	松枝 洋志
	243	人社	共通	迫田 泰明
	312	理工	共通	高浦 二三康
	313	理工	共通	小山 幹一 ✓
	313	理工	共通	渡辺 健太
	321	人社	共通	上田 桂裕
	343	理工	共通	脇田 祐一朗
	421	理工	共通	荒木 敬
	422	理工	共通	伊藤 邦晃
	441	理工	共通	北田 貴之 ✓

平成 1 6 年度活動成果

日 時	行 事	場 所	成 績
5 月 4 日	第 41 回関東学生大会	日本武道館	団体演武：優秀 男子段外：最優秀
5 月 22 日	合同練習（青学・農大）	防衛大	
5 月 29 日	新入生歓迎行事	猿島	
6 月 6 日	合同練習（慶應・早稲田）	防衛大	
6 月 13 日	杉本記念合同練習会	法政大学	優勝
6 月 20 日	昇段審査	藤沢翔陵高校	
8 月前半	夏合宿	校内	
8 月後半	本山合宿（50 期）	香川県多度津町	
11 月 7 日	第 38 回全日本学生大会	日本武道館	団体演武：最優秀 男子初段：敢闘
12 月 11 日	創立 4 0 周年記念行事	グランドヒル市谷	
1 月中旬	寒稽古	防衛大学校	
2 月上旬	OB 杯	場所：防衛大	

各大会個人成績

関東学生連盟大会(平成16年5月4日：日本武道館)

組演段外の部	最優秀	#51 加藤僚	#51 島原 佑太	
団体演武の部	優秀	#50 牛嶋敬幸	#50 鳥居悠希	#50 樋口哲士
		#50 山本篤	#50 稲垣孝洋	#50 藤井貫志
		#50 山内祐介	#50 砂原正法	
	二役	敢闘		

全日本学生大会(平成16年11月7日：日本武道館)

団体演武の部	最優秀	#51 牛嶋敬幸	#50 鳥居悠希	#50 樋口哲士
		#50 山本篤	#50 松岡晋	#50 稲垣孝洋
		#50 藤井貫志	#50 山内祐介	#50 砂原正法
		#51 阿部哲也	#51 加藤僚	#51 木村和史
男子初段	敢闘	#51 窪田雅之	#51 坂東正崇	

平成 1 7 年度年間活動計画

期 間	行 事	場 所	備 考
4月中	全力勧誘期間		目標：30名
5月4日	関東学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
5月14日	新入生歓迎行事	校外	
6月5日	横須賀三浦ブロック大会	三浦市体育館	
6月中旬	慶応・早稲田大学との 合同稽古	防衛大学校	
6月中旬	杉本記念合同練習会	未定	目標：優勝
6月下旬	昇段審査	藤沢翔陵高校	2・3・4年がそれぞれ受験
8月1日～ 5日	夏合宿	未定	
8月中旬	本山合宿	香川県多度津	
11月6日	全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
11月 12、13日	開校祭	防衛大学校	演武の披露
時期未定	全自衛隊大会	沖縄	
11月下旬	政権交代	防衛大学校	
1月上旬	寒稽古	防衛大学校	
2月中旬	OB杯演武大会・納会 OB総会	防衛大学校	
3月下旬	春合宿	防衛大学校	

*尚、各月一回を基準に師範日を予定

少林寺拳法部第50期政権編成

役 職	氏 名	所 属	要員・専攻
主 将	鳥居 悠希	1 1 1	海上・応化
副 将	樋口 哲士	1 1 1	航空・情報
統制長	牛島 敬幸	1 3 3	海上・情報
道場長	藤井 貫志	2 1 1	航空・機材
主 務	松岡 晋	2 1 2	陸上・国関
会 計	砂原 正法	4 3 3	陸上・航宇
安 全	稲垣 孝洋	2 3 2	航空・国関
3年係	山本 篤	1 2 1	陸上・情報
3年係補佐	山内 祐介	2 1 1	海上・機シス
2年係	樋口 哲士	1 1 1	航空・情報
2年係補佐	牛島 敬幸	1 3 3	海上・情報
2年係補佐	松岡 晋	2 1 2	陸上・国関
1年係	稲垣 孝洋	2 3 2	航空・国関
1年係補佐	藤井 貫志	2 1 1	航空・機材
1年係補佐	砂原 正法	4 3 3	陸上・航宇
師範	樋口 哲士	1 1 1	航空・情報
本山	山本 篤	1 2 1	陸上・情報
涉外・学連	山内 祐介	2 1 1	海上・機シス
OB係	稲垣 孝洋	2 3 2	航空・国関

奧平會報

巻 頭 言

奥平会会長 中原 勇

合掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年は日本全国が台風に悩まされ、中越の皆様には地震と豪雨・豪雪に見まわれた文字どおりの「災」の年でしたが、被災された皆様の一日も早い復旧を祈念申し上げる次第です。

また、年の瀬に発生したインド洋大津波による大災害は信じがたい規模のものであり、今更ながら地震・津波の恐ろしさを痛感させられました。世界各国からの支援がなされる中、我が国からも国際緊急援助隊として陸海空の部隊が被災国へ派遣され活動中ですが、各部隊の無事の活躍と被災国の早期復興を衷心より願っているところです。

さて、今年度は、昭和40年に10期生が当時の奥平4大隊指導官のご指導の下、少林寺拳法の修行を開始してから40年目にあたるため、10年節目の創立記念の行事を計画し、去る12月11日に「防衛大学校少林寺拳法部及び奥平会創立40周年記念祝賀会」をグランドヒル市ヶ谷にて開催しました。

祝賀会には防大少林寺の生みの親であり当会の名称にご芳名を頂戴している奥平先生のご出席を賜り、また少林寺拳法連盟本部から宗総裁、全自衛隊連盟から大越会長のご臨席を賜るとともに、初代部長丸川先生、前部長菅野先生、神田・頼富師範、そして全国各地の奥平会員多数の皆様のご出席を頂き、盛大かつ成功裏に祝賀会を開催することが出来ました。祝賀会では、防大少林寺拳法部の創設当時から現在の活動状況等の紹介がなされ、往時を懐かしむとともに防大少林寺拳法部及び奥平会の今後益々の充実発展を祈念したところです。

参加を頂いた皆様そして祝賀会を準備して頂いた準備委員会の皆様に厚く御礼を申し上げます。

防大少林寺拳法部については、部員数も順調に増加し、今後とも大いなる活躍を期待出来るものと確信しております。

各部隊において隊務に励んでおられる会員皆様におかれましては、部隊における支部新設が簡便化されるようですので、是非支部を立ち上げ部隊の皆様が拳法のすばらしさを普及してもらえたら幸いです。

最後になりましたが、会員並びにご家族皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、ご挨拶と致します。

結手

平成16年度奥平会活動概要

1 現役部員に対する支援

日常における学生に対する指導をおこなうとともに、夏季合宿、関東・全日本学生大会等への支援を実施致しました。細部は別紙第1「平成16年度奥平会活動成果報告」のとおりです。特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OB・OGの方々のご多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。来年度につきましてもできる限り大会等の予定を御連絡いたしますので、応援・ご支援のほどよろしくお願ひします。

2 総会の実施

平成17年2月5日、防大において学生による「OB杯演武・乱捕り大会」に連接して平成16年度奥平会総会を開催しました。総会には20名の会員に参集をしていただきました。

総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、特別会費の徴収及び今後の奥平会活動等について発議し、熱心に討議が行なわれました。出席いただいた会員の方々、ありがとうございました。

3 平成16年度会計報告

別紙第2「平成16年度奥平会決算報告書」を参照してください。

平成17年度奥平会活動予定

1 平成17年度奥平会活動内容

別紙第3「平成17年度奥平会活動計画」を参照してください。

2 平成16年度奥平会予算

別紙第4「平成17年度奥平会予算計画」を参照してください

3 平成17年度奥平会本部

役 職	期 別	氏 名	連 絡 先
会長	14A	中原 勇	
副会長（市ヶ谷等）	17A	鈴木 陽	防衛研究所 8-75-6452
副会長兼総括幹事	29A	新保博徳	防衛大学校 8-40-3841
会計監査委員	17F	前田慎一	防衛大学校 8-40-3861
会計・広報	44N	西尾 実	防衛大学校 8-40-2734
庶務	42A	井田輝彦	防衛大学校 8-40-3379

奥平会特別会費徴収結果及び来年度以降の見通しについて

防大奥平会会計係 1等陸尉 井田輝彦 (42期)

(1) 16年度の特別会費について

12年度から特別会費を徴収させていただいておりますが、本年度(16年12月末締め切り)も多数の方のご協力により、¥519,000円を集めさせていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。なお、これまでの実績は、以下の通りです。

12年度：45万円、13年度：30万円、14年度：34万円、15年度：64万円

(2) 16年度収支について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥1,325,434	各種大会支援	¥130,000
OB会費 (48期9名)	¥483,300	学生支援金 新入生獲得支援 合宿支援	¥60,000 ¥15,000
特別会費	¥519,000	技術向上支援	¥200,000
防具代立替金	¥100,000	奥平会運営費	
利 息	¥5,974	OB・三浦ブロック費等	¥45,053
		15年度会報発行	¥154,705
		40周年行事支援	¥100,000
合 計	¥2,433,708	合 計	¥704,758
残高(収入-支出)			¥1,728,950

16年度の支出は、会誌印刷の外注化(¥154,705)、40周年行事支援(¥100,000)等の高額支出項目等がありましたが、全自大会(北海道千歳市)参加辞退やOB会・三浦ブロック費、慶弔等の支出が少なかったため、昨年と比較し7万円増の支出となりました。

(3) 17年度の予算

ア 収入について

現在の部員数は4年生5名、3年生9名、2年生17名、1年生17名であり、増加傾向にあります。既にご案内の通り、OB会の運営経費は当該年度の卒業生の終身OB会費(5.3万円/人)によって賄われ、最低限年間約80万円を必要としております(別紙第5)。このため、恒常的に14名の卒業生が必要とされますが、今年度の卒業生が5名と少ないため、17年度につきましても、引き続き特別会費を徴収させていただく必要があります。現在、年度繰越金として、約2ヵ年分の運営費(160万円)を目標としておりますが、再来年度以降の徴収に関しましては、別途検討させて頂きたいと考えております。

- 徴収方法・徴収額；各会員毎または各駐屯地・基地一括での郵便口座振り込みによる。

1人一口3000円

- 納入期限；決算を1月に行うため平成16年12月31日までにお願いいたします。
 - 徴収期間；平成12年度から卒業生が14名以上に増加する年度までが目安となります。
- 註：振込みの際の住所は部誌の名簿に反映させていただきますので、記入していただきますようお願いいたします。また、期・駐屯地毎に御振込み願えればありがたいです。

イ 支出について

17年度は、大きな事業は予定されていませんので、会誌印刷の外注化継続経費を含め、恒常的な支出は今年度並となります。しかしながら、既にご説明致しましたように、少林寺拳法の「ロゴマーク」変更により、現在保有している部旗の試合会場における使用が認められず、新規購入が必要となります。現在の部旗は、平成6年に30周年記念としてOB会が寄贈したもので、当時の金額で約15万円との記録があります。今回も部旗については、OB会からの寄贈が妥当と考え、予算額の計上が必要であると考えております。

ウ 防具購入費（10セット分53万円）の支援について

昨年度からの宿題となっておりました防具支援については、OB会による全額負担の考え方と、学生自身の負担も必要であるという考えがあります。昨年末、監督を通じて学生の考えを確認したところ、学生は、今後更に10セットの取得を計画していることもあり、できれば5セット分（約25万円）の支援を期待していることが判りました。

一方、16年度の事業として行なわれた40周年記念祝賀会の剰余金につきましては、その全額を浄財として防具購入支援に充当することとしていたところ、御祝い金を含め総額33万円の剰余金が生じたので、これらを全て防具代として支援することと致しました。この処理要領については、記念行事共同開催者の防大少林寺拳法部も了解いたしました。この金額は、学生の希望を上回るものであります。この剰余金の運用にあたっては、昨年度奥平会で予算として計上した額（40周年祝賀会予算枠¥100,000）を補填することも考え得ましたが、奥平会としてはこれを辞退したものです。このような経緯もあり、この33万円は結果として、実質OB会費からの10万円も含まれていることとなります。

期連絡網について

1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

2 連絡の要領

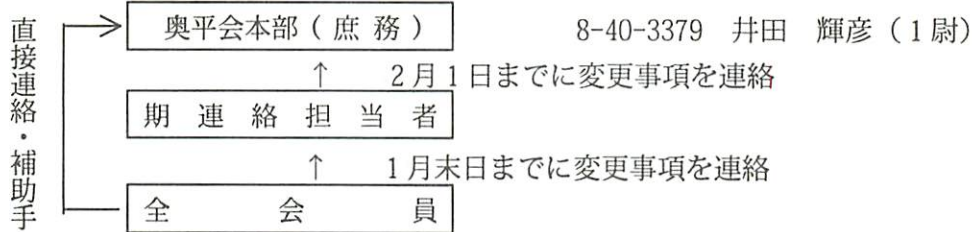
- (1) 各期に1名、連絡担当者をおく。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年1月末日までに同期生の連絡担当者へ連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年2月1日までに奥平会本部（防大庶務）へ連絡する。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通

じて奥平会本部に連絡するものとする。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとする(再任を妨げない)。

4 期連絡網



5 期連絡担当者

(17. 4. 1現在)

10	10A	蔵田 弘明	退職	23	23A	日高 政広	市ヶ谷	36	36A	藤岡 忠生	市ヶ谷
11	11A	勝野 建朗	退職	24	24F	中館 利光	市ヶ谷	37	37N	高取 哲朗	厚木
12	12A	衛藤 利治	退職	25	25N	内山 哲也	目黒	38	38A	奇藤 浩	板妻
13	13A	高本 俊之	退職	26	26F	池畠 暢也	市ヶ谷	39	39A	中村公多朗	土浦
14	14A	清水 重周	退職	27	27F	堀田 隆治	市ヶ谷	40	40A	上野 洋介	朝霞
15	15A	上杉 和壽	退職	28	28A	湯浅 悟郎	市ヶ谷	41	41A	後藤 仁志	習志野
16	16A	富本 啓一	木更津	29	29A	甲斐 正人	岩手	42	42A	古賀 信之	千僧
17	17A	中尾 吉孝	市ヶ谷	30	30A	福田 洋司	市ヶ谷	43	43A	廣瀬 繁	久里浜
18	18F	笠原 久	美保	31	31N	迫田 浩文	市ヶ谷	44	44A	渡邊 俊明	川内
19	19A	屋久 俊郎	習志野	32	32A	福重 毅尚	真駒内	45	45A	八木 新	旭川
20	20A	小林 実	朝霞	33	33N	町島 敏幸	岩国	46	46A	菊地 裕紀	那覇
21	21A	湖崎 隆	大久保	34	34A	竹内 博忠	富士	47	47A	矢野 健一	弘前
22	22A	松村 利宏	市ヶ谷	35	35A	戒田 重雄	市ヶ谷	48	48A	対比地貴行	松本

連絡事項

1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気づきの点がございましたら期連絡担当者又は防大本部庶務まで御連絡ください。なお、期担当連絡者から連絡がなかった期については、各人の所属等は防大同窓会及び昨年度のデータのうち最新のものを使用いたしました。

2 期連絡網について

期連絡網について別項のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡ください。

3 本部連絡先

防衛大学校理工学研究科

1等陸尉 井田 輝彦

専用線 8-40-3379

局 線 0468-41-3811(3379)

e-mail d03001@nda.ac.jp

4 その他

(1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。

(2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。40周年記念祝賀会、活動状況、成績等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。

奥平会員名簿

1 奥平会名誉会員名簿

別紙第6「奥平会名誉会員名簿」をご覧ください。

2 奥平会員名簿

退職者についての細部の住所を知りたい方（奥平会員に限る）は奥平会総括幹事もしくは庶務にお尋ね下さい。その他については、別冊「奥平会員名簿」をご覧ください。

奥平会総括幹事 防衛大学校 新保博徳(8-40-3841)

奥平会庶務 防衛大学校 井田輝彦(8-40-3379)

平成 16 年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 各種活動に対し、金銭的支援及び防大所属会員による人的支援を実施した。
- (2) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣の会員からの激励、金銭的支援を受けた。
- (3) OB 交流等を通じて、昨年度に引き続き合同練習対象校を拡大した。

2 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（新保）
- (2) 合同練習参加
- (3) 2月6日：ブロック新春の集い協力及び参加

3 関東学生OB連合会活動参加

- 6月16日：杉本記念合同練習会（新保、井田）

4 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議
- (2) 政権・OB 合同会議（必要の都度）
- (3) ホームページの作成及び運営
- (4) OB の指導力の向上：
 - ア 武道専門学校通学（井田）
 - イ 本山合宿参加（井田）

5 創立 40 周年記念行事（12 月 11 日）

防衛大学校少林寺拳法部及び奥平会創立 40 周年を記念して、宗由貴少林寺拳法グループ総裁をはじめ多数の来賓をお招きし、グランドヒル市ヶ谷において祝賀会を開催した。現役・OB 等約 150 名が出席して和やかに歓談が行われ、盛会のうちに終了した。

平成16年度奥平会決算報告書（平成16年1月1日～同年12月31日）

1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	1,325,434
47期OB会費	483,300
OB特別会費	519,000
防具代立替金	100,000
利息	5,974
小計	1,108,274
総計	2,433,708

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全日本学生大会	80,000
小計	130,000
学生支援金	
春合宿支援金	5,000
夏合宿支援金	10,000
新入生獲得支援金	60,000
小計	75,000
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	0
三浦ブロック関連	36,000
部誌発行関連	154,705
OB杯・慶事等	9,053
40周年記念行事支援金	100,000
小計	299,758
総計	704,758

2. 残高報告

¥1,728,950 円

上記内容に以上ありません

平成16年度奥平会会計係

井田輝彦

3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員

前田慎一

平成17年度奥平会活動計画

1 活動内容

(1) 部活動支援

金銭的・人的支援を継続して実施する。この際、臨時OB会費を有効に活用する。

(2) 横須賀・三浦ブロック活動参加

近隣支部との合同練習を活発に実施する。

(3) 関東学生OB連合会活動参加

懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。(日本体育大学と調整中)

(4) 校内活動

OBの部活動・練習参加は定着しているが、更にOB自身の技術向上を図り、積極的に指導を実施する。

2 部の活動予定

「防大少林寺拳法部学生活動計画」参照

3 活動に当たっての重点事項

- (1) 臨時OB会費(特別会費)の徴収を17年度も実施する(細部については会計報告を参照のこと)。
- (2) 新入部員獲得に重点的な支援を行う。(金銭支援、勧誘活動支援)
- (3) 指導に当たる4学年が9名であるので、OBが積極的に技術指導に当たる。
- (4) OBの技術向上のため、武道専門学校への入学及び各種大会への参加を16年度以上に推進する。
- (5) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。
- (6) 防大勤務OBの増加を要望する。
- (7) 期連絡網については、メールの活用を含め、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

平成 17 年度奥平会予算案（平成 17 年 1 月 1 日～同年 12 月 31 日）

1. 収支案

収入	
前年度繰越金	1,728,950
小計	1,728,950
49 期OB会費	268,500
OB特別会費	600,000
その他(防具代)	100,000
利息	4,000
小計	972,500
総計	2,701,450

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	50,000
全日本学生大会	80,000
小計	180,000
学生支援金	
春合宿支援金	5,000
夏合宿支援金	10,000
新入生獲得支援金	60,000
部旗	150,000
小計	225,000
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	90,000
三浦ブロック関連	70,000
部誌発行関連	150,000
OB杯・慶事等	60,000
小計	370,000
総計	975,000

2. 収支合計

¥1,726,450円

※ 収入において特別会費を本年度並に見積もっている（総会において決議された）。

奥平会収支と特別会計

平成年度		12	13	14	15	16	17	18	19	備 考	
卒業期別		45	46	47	48	49	50	51	52		
A	卒業生数	人	6	4	7	10	9	5	9	17	52期は2学年
B	終身会費 5.3 万/人	万円	32	21	37	53	48	27	48	90	
C	支援金+利息等	万円	1	1	1	0	0	0	0	0	
D	特別会費を除く 収入 (B+C)	万円	33	22	38	53	48	27	48	90	
E	活動経費 (実績)	万円	66	83	64	122	70	97	80	80	15年度は防具 立替
F	不足額 (D-E)	万円	-33	-61	-26	-69	-22	-70	-32	10	
G	特別会費 (3 千/人)	万円	45	30	34	64	52	60	・	・	17年度は仮置
H	特別会費 累計 (ΣG)	万円	45	75	110	174	226	286			
K	次年度繰越分 (I+F+G)	万円	160	129	137	132	162	152	120	130	

※ 52期以降 14名以上になる場合は、特別会費の徴収は不要になると見積られる。

奥平会名誉会員名簿

(17. 4. 1 現在)

職 名	氏 名	現所属及び役職	連 絡 先
新部長	高橋 信明	応用物理学科 教 授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南 3-16-16 TEL 045-784-2339
師 範	神田 憲和	三多摩副道院 長 准範士 6 段	〒164-0003 中野区東中野 2-14-7 TEL 03-3363-6275
師 範	頼 富英武	少年工科学校 顧問 准範士 6 段	〒238-0315 横須賀市林 5-6-11 TEL 0468-56-7663
顧 問	有賀 敦	機能材料工学 科 講 師	〒239-0814 横須賀市二葉 1-55 A-202 TEL 0468-44-0264
前部長	菅野 等	副校長 応用化学科 教 授	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6 丁目 34 番 1-411 TEL 045-786-5877
元部長	丸川 武志		〒120-0046 足立区小台 2-33-2 TEL 03-3919-5910
元顧問 (OB 以 外)	奥平 正人 (奥平会名誉会長)		〒828-0044 豊前市小石原 392-3 TEL 0979-82-2287

別冊

奥平会員名簿

(平成17年4月1日現在)

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
10	A	黒野 耐	退職	〒3300061埼玉県さいたま市浦和区	
10	A	三井 光夫	退職	〒1870022東京都小平市上水本町	
10	A	松島 順一	退職	〒3510115埼玉県和光市新倉	
10	A	清水 爲男	退職	〒2630031千葉県千葉市稲毛東	
10	A	蔵田 弘明	退職	〒3440077埼玉県春日部市小湊	10期連絡員
10	F	出田 弘一	退職	〒8891403宮崎県児湯郡新富町上富田中の丸	
10	N	鈴木 勝人	御逝去		
10	N	岡崎 昭一	退職	〒2150023川崎市麻生区片平	
11	A	坂元 正昭	退職	〒2710044松戸市西馬橋	
11	A	勝野 健郎	退職	〒6640004兵庫県伊丹市東野	11期連絡員
11	A	須ヶ崎 了英	退職	〒8200712福岡県嘉穂郡筑穂町大分	
11	A	水野 照夫	退職	〒3470016埼玉県加須市花崎北	
11	A	田谷 俊之	退職	〒0650032札幌市東区北32条東	
11	A	廣岡 征夫	退職	〒1400013東京都品川区南大井	
11	F	上田 勇作	退職	〒8900032鹿児島市西陵	
11	F	清水 正睦	退職	〒3591132所沢市松ヶ丘	
11	F	藤田 尚	退職	〒1860026東京都府中市南町	
11	N	佐藤 正秀	退職	〒8930064鹿児島県鹿屋市西原	
11	N	渡辺 貞吉	退職	〒2440816横浜市戸塚区上倉田町	
12	A	衛藤 利治	退職	〒8410002佐賀県鳥栖市袖比町	12期連絡員
12	A	新井 宏	御逝去		
12	F	田中 絃治	退職	〒3501315埼玉県狭山市北入曾	
12	F	野口 昭徳	退職	〒2701471千葉県船橋市小宮町	
12	N	橋田 典幸	退職	〒7222102広島県因島市重井町	
12	N	佐藤 備凡	退職	〒2110041川崎市中原区小田中	12期主将
12	N	津川 保夫	退職	〒7370054広島県呉市上山田町	
13	A	西村 繁樹	防大 防論教授		
13	A	戸田 勝秋	退職	〒4910074愛知県一宮市東島町	
13	A	益田 修	退職	〒8612101熊本県熊本市桜木	
13	A	石原 藤雄	退職	〒8611102熊本県菊池郡西合志町須屋	
13	A	高本 俊之	退職	〒7012142岡山県岡山市玉柏	13期主将 13期連絡員
13	A	白石 克成	退職	〒3210132栃木県宇都宮市雀の宮	
13	F	松生 剛	退職	〒4418135愛知県豊橋市富士見台	
14	A	赤瀬 良二	北千歳	〒3210132 栃木県宇都宮市雀の宮	
14	A	清水 直正	退職	〒3770004東京海上火災 茨川市半田	
14	A	中原 勇	退職	〒8913104鹿児島県西之表市住吉	14期副将 奥平会会長
14	A	清水 重周	退職	〒2900155千葉県市原市番場	14期連絡員
14	A	原田 敏男	退職	〒7541241吉敷郡阿知須町浜表	
14	A	斎藤 正精	退職	〒2270033神奈川県横浜市青葉区鶴志田町	
14	F	高須 好美	退職	〒4460073愛知県安城市篠1町古林群	14期主将
14	F	今井 岸夫	退職	〒7190234岡山県浅口郡鞆方町益坂	
14	N	森田 則広	御逝去		
15	A	古川 照久	退職	〒3510035埼玉県朝霞市朝志ヶ丘	
15	A	大竹 義信	退職	〒0670026北海道江別市豊帆花岡町	
15	A	花房 晃夫	退職	〒8610115熊本県鹿本郡植木町米塚	15期主将
15	A	野間口 光男	退職	〒8910103鹿児島県鹿屋市長田町	
15	A	遠田 雅美	退職	〒0650005北海道東区北5条	
15	A	井口 昌之	退職	〒3310823さいたま市北区日進町	
15	A	安村 幸次	退職	〒2130002神奈川県川崎市高津区二子	
15	A	岡 隆	退職	〒1750084東京都板橋区四葉	
15	A	加藤 三千夫	退職	〒3530002埼玉県志木市中宗岡	
15	A	土居 良治	退職	〒0802474帯広市西24条南	
15	A	長船 敬夫	退職	〒6700893兵庫県姫路市平野	
15	A	奥野 耕三	退職	〒5820026柏原市旭ヶ丘	
15	A	三嶋 利克	退職	〒2750026千葉県習志野市谷津	
15	A	上杉 和壽	退職	〒4130011静岡県熱海市市原本町	15期連絡員
15	F	島田 徹	退職	〒4371213静岡県伊豆郡松田町松新田	
15	F	福嶋 健司	退職	〒8111302福岡市南区井尻	
15	N	今村 修二	退職	〒2240029横浜市都筑区南山田	
15	N	山崎 富雄	退職	〒2330006神奈川県横浜市南区芹が谷	
15	N	中島 栄一	横須賀 自衛艦隊司令		
15	N	山下 啓介	退職	〒2350024神奈川県横浜市磯子区森ヶ丘	
16	A	富本 啓一	木更津 第1ヘリ団長		16期副将・連絡員
16	A	平川 真士	目黒 陸幹部学校教育部統率管理教官室長		
16	A	佐々木 二郎	退職	〒1870013東京都小平市回田町	
16	A	内山 晃	退職	〒3501305埼玉県狭山市入間川	
16	A	芦岡 広明	十条 航空統制本部長		16期主将
16	A	斉藤 健治	退職	〒8740905大分県別府市上野口町	
16	A	岡田 正一	退職	〒6540122兵庫県神戸市須磨区道正台	
16	A	竹内 輝一	退職		
16	F	小笠原 猛	退職	〒7360082広島県広島市安芸区船越	
16	F	八木橋 享	御逝去		
16	N	阿部 哲夫	退職	〒2360032神奈川県横浜市金沢区六浦町	
16	N	松島 一夫	御逝去		
17	A	吉川 雄二	市ヶ谷A 技術研究本部第3研究所		
17	A	小坂 正志	市ヶ谷A 会計監査隊本部		
17	A	飯島 定雄	市ヶ谷A 契約本部		
17	A	廣瀬 誠	青森 第9師団長		
17	A	鈴木 陽	市ヶ谷A 技術研究本部技術開発官(陸上担当)		奥平会副会長
17	A	佐藤 吉信	北宇都宮 航空学校宇都宮分校長		
17	A	村田 芳次	小平 システム教育部運用教官室		
17	A	中尾 吉孝	市ヶ谷A 中央業務支援隊総務部長		17期連絡員
17	A	富安 久方	前川原 幹部候補生学校		17期副将
17	A	小池 保治	退職	〒3420041埼玉県吉川市保	
17	A	福澤 賢	退職	〒1150051東京都北区浮間	
17	A	荒木 正廣	健軍 西部方面総監部陸連絡官		
17	A	高橋 輝正	退職	〒1930816東京都八王子市大塚寺町	
17	F	稲見 潔	十条 契約本部東京支部検査3課長		
17	F	磯野 茂樹	百里 偵空副司令		
17	F	石渡 啓生	春日 西部航空方面隊副司令官		
17	F	水富 信吉	退職	〒2770884千葉県柏市みどり台	
17	F	西岡 義博	人間 第2補給本部 業務部長		
17	F	松田 清明	那覇 南混司 装備部 計画課		
17	F	高田 敏夫	退職	〒3700864高崎市石原町	
17	F	前田 慎一	防大 防大防論教授		
17	F	山本 剛	退職	〒0470155北海道小樽市望洋台	
17	F	澤 博海	退職	〒7390008広島県広島市西条吉行東	17期主将

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主 持・副 持・期 連 絡 員
17	N	塔岡 道夫	舞鶴	舞鶴基地業務隊司令	17期副持
17	N	久和 清幸	佐世保	さがみ艦長	
17	N	西嶋 正幹	退職	〒9813362宮城県黒川郡富谷町日吉台	
18	A	安藤 恒夫	退職	〒3210912栃木県宇都宮市石井町	
18	A	中島 仁文	健康	西部方面総監部人事部	
18	A	大西 正俊	市ヶ谷A	陸上幕僚監部装備部部長	
18	A	越前 章雄	東千歳	北部方面指揮所訓練支援隊副隊長	
18	A	宮田 秀二	霞ヶ浦	関東補給処航空部	
18	A	川原 彰	札幌	北方警務隊	
18	A	百藤 敏明	霞ヶ浦	関東補給処朝日燃料支処長	
18	A	紫村 敬二	朝霞	朝霞駐屯地業務隊長	
18	A	上田 正文	立川	立川業務隊長	
18	A	工藤 重見	十條	補給統制本部	
18	A	門野 睦廣	十條	補給統制本部情報処理部長	
18	A	千原 和人	朝霞	東部方面後方支援隊副隊長	
18	A	河野 基春	健康	九州補給処(健康支処)	
18	A	渡辺 義幸	飯塚	2高特団副長	
18	F	長尾 齋久	市ヶ谷F	空自情報保全隊司令	18期副持
18	F	笠原 美保	美保	第3輸送航空隊副司令	18期連絡員
18	F	勘米良幸一	御逝去		18期主将
18	F	白敷 裕樹	退職	〒6150883京都市右京区西京極南大人町	
18	N	近藤 清司	小月	小月航空基地隊	
18	N	平原 誠	鹿屋	鹿屋航空基地隊司令	
18	N	松井(斎藤)博	下総	第203整備補給隊	
18	N	岩瀨 秀樹	横須賀	横須賀地方総監部防衛部長	
19	A	津留崎清宝	霞ヶ浦	霞ヶ浦駐屯地業務隊長	
19	A	岡部 武典	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 調査部調査課	19期副持
19	A	三星 忠正	仙台	東北方面隊情報保全隊	
19	A	前之園敏雄	霞ヶ浦	関東補給処	19期主将
19	A	屋久 俊郎	習志野	習志野業務隊	19期連絡員
19	A	青柳 忍	仙台	会計監査隊東北方面分遣隊副隊長	
19	A	野村 俊朗	立川	技術(3研)	
19	A	迫田 直心	自達原	九州補給処	
19	A	廣瀬 和紀	別府	別府駐屯地業務隊長	
19	A	東 光博	退職	〒2790026千葉県浦安市弁天	
19	A	古庄 和裕	小平	小平学校総務部	
19	F	田中 秀明	目黒	幹部学校	
19	F	郷田 進	人間	航空システム隊保監群司令	
19	F	松下 睦裕	目黒	幹部学校副校長	
19	F	藤井 和弥	人間	中空装備部長	
19	F	吉本 博	小松	第6空団司令部 装備部長	
19	F	磯 光三	人間	第4補給処調達部長	
19	F	小曲 一之	目黒	幹部学校教育部	
19	F	岡山 栄一	退職	米岡在住	19期副持
19	F	杉山 昌宏	退職	〒2440801神奈川県横浜市戸塚区信濃町	
19	N	松山 守秀	目黒	幹部学校第1教官室長	
20	A	山形 克己	札幌	北部方面総監部 装備部長	
20	A	仲原 久晃	市ヶ谷A	契約監査隊本部	20期主将
20	A	半澤 康司	小平	小平学校情報教育部第1教育課長	20期副持
20	A	楠本 裕幸	川西	中方指揮訓練隊長	
20	A	樽 喜隆	久里浜	通信学校第2教育部長	
20	A	高岡 正明	飯塚	第2施設副群長	20期副持
20	A	小林 実	朝霞	体育学校	20期連絡員
20	A	浅原 昭夫	十條	補給統制本部	
20	A	伏木 亨	十條	補給統制本部弾薬部	
20	A	馬場崎 修	退職	(不明)	
20	F	南園 宏	人間	中部警戒1師団防衛部長	
20	F	田中 和之	目黒	幹部学校	
20	F	高林 久	人間	中警団23司令	
20	F	岳川 清美	人間	第1高射群副指令	
20	F	石田 裕	当別	北警団45警司令	
20	F	岸本 昌文	退職	〒4800146丹羽郡大口町余野	
20	N	木村 孝彦	下総	第3術科学校教務部長	
21	A	高橋 久泰	青森	第9後方支援連隊副連隊長	
21	A	桑原 幹夫	桂	関西補給処総務部長	
21	A	湖崎 隆	大久保	第4施設団長	21期連絡員
21	A	加藤 隆	札幌	札幌地方連絡部	
21	A	澤井 研次	札幌	北部方面総監部人事部厚生課長	
21	A	野中 敏治	御逝去		
21	A	花田 一志	仙台	東北方面情報保全隊	
21	A	浜崎 勝	十條	補給統制本部	
21	A	園田 郁夫	姫路	第3特科連隊長	
21	A	大谷昭次郎	伊丹	中方総務課長	
21	A	渡部 誠	三宿	技研本部第2研究所第1部	
21	A	貴志 倫生	伊丹	中部方面総監部装備部	
21	F	松本 修司	佐渡	中警団46警戒隊長	
21	F	真田 雅章	下飯島	西警団9警戒隊長	
21	F	平本 行	目黒	幹部学校	
21	F	沼田 幸男	十條	補給本部	
21	F	木山 幸保	人間	第3補給処保管部長	
21	F	廣江 勝馬	十條	補給本部総務部人事課長	
21	F	杉本 弥行	十條	補本	
21	F	朱 永武	留学生	シンガポール在住	
21	F	鍋島 和史	退職		21期副持
21	F	黒澤(岡谷)豊彦	那覇	南混団	21期主将
21	N	伊島(城山)宏	退職	(不明)	
21	N	福岡 誠	舞鶴松ヶ崎	舞鶴教務科長	
21	N	村田 隆彦	横須賀	開発群首席幕僚	
21	N	山口 次郎	目黒	幹部学校運用計画指導班	21期副持
22	A	野口 利保	南恵庭	第73戦車連隊長	22期副持
22	A	財城 昭彦	真駒内	真駒内駐屯地業務隊長	
22	A	永来 文晴	立川	東部方面航空隊長	
22	A	吉岡 聖二	勝田	施設学校教育部長	22期主将
22	A	松本 俊二	美幌	第101特科大隊長	
22	A	原田 有繁	札幌	北部方面総監部総務部	
22	A	松村 利宏	市ヶ谷A	陸上幕僚監部防衛部防衛課	22期連絡員
22	A	大木 健吾	小平	小平学校情報教育部第1教育課第3教官室	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
22	A	島松 正一	飯塚	第3高射特科群 副群長	
22	F	永龍 盛重	市ヶ谷 F	統幕(3幕)	
22	F	野村 勝廣	十条	補本	
22	F	堂込 勝也	人間	第3輸送航空隊整備補給群司令	22期副将
22	F	酒井 伸	小松	6空団人事部長	
22	F	木戸 文夫	小牧	救難教育隊長	
22	F	横手 裕明	小牧	第5術科学校2教部長	
22	F	小関 信宏	市ヶ谷 F	情本	
22	N	塚田 真司	横須賀	自衛艦隊司令部兼外務省出向	
22	N	延近 保生	厚木	航空集団幕僚	
22	N	高塚 裕幸	呉	第4護衛隊	
22	N	中谷 茂	江田島	1術校 第2教育部長	
22	N	坊垣内 広明	退職	〒2320061 横浜市南区大岡	
23	A	丸山 和宏	東千歳	北部方面指揮所訓練支援隊統裁支援班長	
23	A	若杉 治徳	東千歳	東千歳業務隊総務科長	
23	A	岩田 清文	富士	富士学校機甲科部長	
23	A	谷崎 敏弘	名寄	第3普通科連隊副連隊長	
23	A	日高 政広	市ヶ谷 A	陸幕人事部厚生課長	23期連絡員
23	A	奥野 和男	朝霞	東部方面総監部装備部輸送班長	
23	A	浦川 平次	千歳	自衛隊千歳地方連絡部 募集課長	
23	A	松岡 和利	土浦	武器教導隊長	
23	A	三木 元秀	宇治	関西補給処	23期主将
23	A	成塚 雅史	東千歳	7師団4部長	
23	F	松尾 茂	目黒	幹部学校第2研究室	
23	F	池邊 正	埼玉	埼玉地連部長	23期副将
23	F	宮田 義章	芦屋	第3術科学校	
23	F	シンナロン	留学生	タイ王国在住	
23	F	川添 一正	退職	〒8900073 鹿児島県鹿児島市宇宿	
23	F	馬谷 誠二	退職	〒5810025 大阪府八尾市天王寺屋	
23	N	山下 啓治	市ヶ谷 N	情本	
23	N	数野 謙一	横須賀	しもきた	
23	N	井ノ久保 雄三	横須賀	第5護衛隊司令	
23	N	四元 和生	目黒	海上自衛隊幹部学校 第2教官室	
23	N	井口 義定	厚木	第51航空隊第51整備隊長	23期副将
23	N	畑中 孝行	佐世保	第6護衛隊司令	
24	A	芹川 慎介	別海	別海駐屯地業務隊長	
24	A	太田 尚志	朝霞	研究本部主任研究開発官	24期副将
24	A	堀之内 誠	小平	小平学校情報教育部	
24	A	大久保和美	富士	富士学校 富士教導団本部	
24	A	西江 茂	千僧	兵庫地方連絡部	
24	A	山田 雅巳	市ヶ谷 A	統幕(3幕) 太平洋軍司令部	
24	A	瀧 靖隆	朝霞	研究本部総合研究部第3課	
24	A	稲葉 貞志	木更津	第2ヘリ隊長	
24	A	金田 辰夫	吉井	関東補給処(吉井)	
24	A	山川 純次	八戸	第5高射群長	
24	A	浅野 博義	小平	小平学校語学教育部長	
24	A	中村 健蔵	富士	装束隊6実科長	
24	A	高澤 慎司	退職	東京アイシーエス 〒1140013 東京都北区東田端	
24	A	常田 義則	退職		
24	F	出口 潔	市ヶ谷 F	航空幕僚監部 給与室長	24期主将
24	F	中館 利光	市ヶ谷 F	契約本部 契約管理第4課 誘導武器室	24期連絡員
24	F	佐藤 秀幸	小牧	第5術科学校1教部長	
24	F	清水 尚志	木更津	1補 東支	
24	F	藤城 希基	人間	総司飛	
24	F	山田 眞一	那覇	南混団司令部防衛部	
24	N	佐伯 泰啓	市ヶ谷 N	基礎情報支援隊	
24	N	小川 勝志	横須賀	なるしお艦長	
24	N	中村 早速	呉	第1ミサイル隊司令	
24	N	山本 浩	御逝去		
24	N	松田 俊宏	退職	〒7330843 広島市西区井口鈴が台	24期副将
24	N	長谷川 隆	退職	〒4910057 愛知県一宮市今伊勢町宮後字宮代	
25	A	田草川 茂人	伊丹	中部方面総監部 厚生課長	25期副将
25	A	大内 元	市ヶ谷 A	陸幕装備部開発課開発1班長	
25	A	岡元 正一	仙台	東北補給処	
25	A	石川 哲也	純馬	第1師団司令部 法務官	
25	A	小野寺 靖	板妻	第34普通科連隊長	
25	A	佐伯 義次	富士	富士学校 普通科部 レンジャー班長	
25	A	重石 義幸	姫路	第3特科連隊長	
25	A	小菅 康雄	富士	開発実験団 総務科	
25	A	若本 順二	千僧	第3師団司令部 総務課	
25	F	安芸 市	市ヶ谷 F	航空幕僚監部 人事計画調整官	
25	F	坂本 卓己	市ヶ谷 F	航空幕僚監部 装備調整官	25期副将
25	F	藤吉 恵一	十条	補本	
25	F	尾崎 仁樹	十条	補本	
25	N	高島 修	下総	205空	
25	N	内山 哲也	目黒	統幕学校運用計画科計画指導班長	25期主将 連絡員
25	N	杉原 耕二	市ヶ谷 N	海上幕僚監部 人事教育部 人事計画課	
25	N	籠谷 豊年	呉	潜訓教育科長	
25	N	河村 正雄	市ヶ谷 N	海幕 補任課長	
26	A	内海 浩	市ヶ谷 A	陸幕装備部航空機課航空機班長	
26	A	河原 敏和	退職	〒1760005 練馬区旭ヶ丘	
26	A	小野 長門	退職	〒8650015 玉名市亀甲 熊本工業大学	
26	A	滝沢 由則	退職	三菱スペースソフトウェア 総合事務所	
26	A	中村 明弘	退職	〒2260027 横浜市緑区長津田	
26	A	及川 幸夫	留萌	第26普通科連隊3科長	
26	A	友部 隆	市ヶ谷 A	中央システム管理隊3科長	
26	A	松田 正行	札幌	北部方面隊調査部調査課	
26	A	金子 寿弥	市ヶ谷 A	防衛庁防衛局	
26	A	吉田 英紀	勝田	施設学校第1戦技教官室長	
26	A	吉田 吉宏	朝霞	東部方面総監部人事課予備自衛官班長	
26	A	坂野 佳彦	小平	小平学校情報教育部第2教官室長	
26	A	山下 清隆	千僧	第3高射大隊長	
26	A	谷 俊彦	目黒	幹部学校教育部教務班長	
26	A	石山 暁	朝霞	東部方面総監部 情報保全隊	
26	A	石川 毅	情本		
26	F	米子 誠	市ヶ谷 F	空幕 調達2班長	
26	F	池田 暢也	市ヶ谷 F	空幕 装備部整備課整備第4班長	26期副将 連絡員

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
26	F	澤木 優輔	退職	〒2370064神奈川県横浜市追浜町	
26	F	福島 隆	小松	第6航空団飛行群司令	
26	F	星川 敦	松島	第4空団整備補給群整備主任	
26	N	市坪 秀明	舞鶴	第3護衛群 せとぎり	
26	N	相良 達也	下総	第205教育航空隊	
26	N	道満 誠一	呉	第1潜水隊司令	26期主将
26	N	佐藤 寿紀	横須賀	第1護衛隊司令	
26	N	杉山 義和	目黒	統幕学校教官室	26期副将
26	N	水野 伸彦	厚木	航空団幕僚	
26	N	上野 真一郎	目黒	管部学校A C 学生	
26	N	平野 勝	退職	(不明)	
27	A	濱田 秀	目黒	防衛研究所	
27	A	米山 多佳志	目黒	幹部学校研究班長	
27	A	行事 正	富士	開発実験団 装備実験隊 企画班	
27	A	清田 浩司	健軍	西部方面総監部 人事部 募集課計画班長	
27	A	大場 英雄	目黒	陸自幹部学校 戦史室教官	
27	A	角南 良治	市ヶ谷A	陸幕 教訓部 訓練・演習班長	
27	A	舞原 博己	久里浜	通信学校第1教育部技術教官室長	
27	A	山之上 哲郎	市ヶ谷A	陸幕防衛部編成班長	
27	A	大居 一之	十条	補給統制本部	
27	A	大石 隆一	市ヶ谷A	情報保全隊本部 市ヶ谷班長	
27	A	長合 友造	市ヶ谷A	陸幕調査部3 G 班長	
27	A	緒方 箱治	御逝去		27期副将
27	A	川村 治彦	退職	(不明)	27期主将
27	A	馬場 政和	退職	(不明)	
27	F	西山 利昭	退職	〒3810000長野県長野市往住地	
27	F	蔵田 衛人	退職	日商71井	
27	F	沢村 徹	退職	(不明)	27期副将
27	F	元木 啓嗣	新田原	第5空団整備主任	
27	F	堀田 隆治	市ヶ谷F	空幕 装備部補給課計画班長	27期連絡員
27	F	足立 謙聡	入間	航空救難団 団司令部 防衛部	
27	F	高野 宗治	目黒	管部学校A W C	
27	F	甲斐 新太	防府北	12飛行教育団	
27	F	兼古 修	那覇	南混団	
27	N	益田 徹也	市ヶ谷N	情報本部	
27	N	菱口 俊介	目黒	統幕学校学生	
27	N	山田 洋士	厚木	51航空隊調査研究隊	
27	N	小川 昌宏	船越	海上自衛隊第2術科学校研究部	
27	N	五領 隆男	呉	第3潜水隊はやしお艦長	
27	N	中川 巧	退職	〒4800146丹羽郡大口町余野	
28	A	足立 哲彦	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 装計	
28	A	岡澤 武彦	市ヶ谷A	技本 陸開 新戦車準備室	
28	A	北原 秀章	仙台	東北方面総監部訓練課長	
28	A	矢野 光宏	古森	9師団3部長	28期副将
28	A	永井 大介	退職	日立造船情報システム	
28	A	越水 達哉	退職	〒6495332東牟婁郡那智勝浦町朝日	
28	A	吉田 正人	退職	〒2280812相模原市相南	
28	A	畦地 勇	退職	〒1680082杉並区久我山	
28	A	鶴見 耕市	退職	〒2440801神奈川県横浜市戸塚区臨瀧町	
28	A	滝浅 悟郎	市ヶ谷A	陸幕 教訓部教育訓練計画課企画班長	28期主将 連絡員
28	A	藤原 修	目黒	#50ACS学生	
28	A	日高 信行	帯広	第4普通科連隊3科長	
28	A	古賀 敏明	北熊本	第8特科連隊3大隊長	
28	A	三好 邦夫	守山	第10師団司令部第2部	
28	A	幸野 英明	目黒	#50ACS学生	
28	F	白水 裕人	目黒	統幕学校学生	
28	F	今井 邦夫	十条	補給統制本部 第3部第3整備課	
28	F	山田 顕嗣	防府北	12飛行教育団航空学生教育群教育主任	
28	F	木廣 勝己	市ヶ谷F	航空幕僚監部 援護業務課 援護班	
28	F	堀米 浩章	千歳	第2航空団飛行場勤務隊長	
28	F	神山 隆	退職	〒3001231茨城県牛久市猪子町	
28	F	米田 健二	退職	(不明)	
28	N	内田 公明	横須賀	艦隊計測科長	
28	N	上野 清昭	横須賀	自衛艦隊司令部	
28	N	竹本 直忠	横須賀	しらせ	
28	N	河津 稔	舞鶴	第4術科学校	
28	N	西小路 謙	退職	(不明)	28期副将
28	N	中川 勝也	退職	〒4700471愛知県西加茂郡藤岡町石畳	
28	N	平島 一	退職	日本電産相談	
28	N	鈴木 巧	退職	〒3050041茨城県つくば市上岡	
29	A	古田 清悟	習志野	第1空挺団	
29	A	甲斐 正人	岩手	第6高射大隊長	
29	A	水上 義仁	市ヶ谷A	統合幕僚会議事務局	29期連絡員
29	A	大川 浩史	習志野	第1空挺団第3普通科大隊長	29期副将
29	A	谷 拓弥	市ヶ谷A	外務省出向(アフガン武官)	
29	A	立林 剛	小平	小平学校教官	29期副将
29	A	松岡 恭一	退職	〒2700001千葉県松戸市幸田	
29	A	坂井 辰也	退職	〒8492101佐賀県杵島郡大町町大町	
29	A	青柳 光	退職	(不明)	29期主将
29	A	川上 和美	退職	〒8574413長崎県南松浦郡上五島町今里郷	
29	A	浅川 玉樹	退職	〒2160004神奈川県川崎市宮前区鷺沼	
29	A	託摩 安廣	退職	〒0798413旭川市永山3条	
29	A	中村 浩之	市ヶ谷A	陸幕総務課監理班	
29	A	古川 靖人	仙台	東北方面総監部 装備部	
29	A	新保 博徳	防大	防衛大学校防衛学教育群	
29	A	駒井紀美彦	島松	北海道補給処	
29	A	津田 芳明	十条	補給統制本部	
29	A	蛭原 良雄	十条	補給統制本部	
29	A	鈴木 健一郎	御逝去		
29	F	熊田原 修	小牧	第1輸送航空隊整備業務群整備主任	
29	F	西村 政恭	十条	補本付	
29	F	高松 実	市ヶ谷F	統幕4室	
29	N	宮田 敏邦	横須賀	情報業務群	
29	N	山崎 浩一	目黒	A C 学生	
29	N	柏木 均	呉	潜水訓練隊	
29	N	佐竹 右幾	退職	〒9260828七尾市白馬町ワ部	
29	N	小原 敦彦	退職	〒3710246群馬県勢多郡宮城村柏倉	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
30	A	龜山 淳	金沢	第14普通科連隊	
30	A	宮本 善弘	市ヶ谷A	陸幕整備部航空機課	
30	A	山口 芳正	朝霞	東部方面総監部 防衛部	
30	A	菅野 俊夫	目黒	統幕学校学生	
30	A	池永 博和	市ヶ谷A	情報本部	30期副将
30	A	土屋 甲吉	市ヶ谷A	統合幕僚会議事務局	
30	A	福田 洋司	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 整備部 開発課	30期主将 連絡員
30	A	笠島 広文	退職	鯖江市役所 環境政策室	
30	A	魚野 治晴	退職	〒2250015横浜市青葉区住田北	
30	A	松岡 恭一	退職	〒2700001千葉県松戸市幸田	
30	A	船津 達男	退職	〒8221101福岡県田川郡赤池町大字赤池	
30	A	中井 馨	退職	〒6660111兵庫県川西市大和東	
30	A	岩熊 真司	大宮	化学学校企画室長補佐	
30	A	魚住 晴康	目達原	西部方面航空隊	
30	A	林 宏幸	十条	補給統制本部	
30	A	中森 雅美	札幌	札幌地方連絡部 募集課長	
30	A	西 良典	善通寺	第15普通科連隊	
30	A	中村 大助	旭川	第2特科連隊第2大隊長	
30	A	矢納 裕二	市ヶ谷A	陸幕 管理部会計課	
30	A	中川 洋行	明野	開発実験団飛行実験隊	
30	F	栗田 尚幸	御逝去		
30	F	後藤 豊	退職	〒9930002山形県長井市屋城町	
30	F	黒田 健一	退職	〒6512224神戸市西区秋葉台	
30	F	西本 彰雄	市ヶ谷F	空幕 防衛部運用課	
30	F	吉田 憲司	市ヶ谷F	空幕 情報通信課	30期副将
30	F	橋爪 猛	市ヶ谷F	空幕 整備部整備課	
30	F	高橋 朝敏	春日	空幕	
30	N	湯浅 秀樹	市ヶ谷N	海幕 人事部 補正課	
30	N	百崎 邦彦	厚木	51空兼技本開発官	
30	N	時久 寛司	市ヶ谷N	海幕 航空機課	
30	N	鈴木 達雄	退職	〒4850812小牧市城山	
31	A	龜山 慎二	市ヶ谷A	陸幕 教訓部 教育計画課	31期副将
31	A	石丸 威司	川内	第8施設大隊長	
31	A	中川 博英	市ヶ谷A	陸幕 整備部需品課	
31	A	椎野 健治	木更津	第1ヘリコプター団	
31	A	田口 直志	春日井	10後支連2整大中長	
31	A	藤岡 登志樹	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 防衛課	
31	A	佐野 光	市ヶ谷A	陸幕 調査部 調査	
31	A	松井 健一	富士	302観測中隊長	
31	A	吉武 辰明	春日井	第10後方支援連隊 輸送隊長	31期主将
31	A	久保 敏浩	千僧	第3後方支援連隊3科長	
31	A	辻 政幸	目黒	幹部学校研究班第1教官室	
31	A	橋本 哲彰	市ヶ谷A	統幕 (3幕)	
31	A	池ノ本 八郎	古井	補給統制本部 (古井)	
31	A	久富 博幸	退職	(不明)	
31	A	大島 龍一郎	退職	(不明)	
31	A	辰巳 竜悟	退職	日本紛争予防センタースリランカ地雷除去プロジェクトマネージャー	
31	F	阿部 博文	目黒	幹部学校付	
31	F	北村 克晶	浜松	2術校	
31	F	野沢 隆一	市ヶ谷F	統幕5室	31期副将
31	F	渡澤 寛	三沢	北空司令部整備部整備課	
31	F	近藤 良彦	築城	8空団	
31	F	小南 良人	御逝去		
31	N	迫田 浩文	市ヶ谷N	システム通信群幕僚	31期連絡員
31	N	岡田 岳司	江田島	第1術科学校 艦艇用兵科教官	
31	N	久保田修一	呉	くろべ	
31	N	甲斐 義博	佐世保	第2高衛隊隊員 さわぎり副長	
31	N	蝦名 伸治	市ヶ谷N	情報本部	
31	N	大井 一史	館山	123航空隊	
32	A	境 孝明	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 監理部 総務課 渉外班	
32	A	山地 伸一	善通寺	2混団後支中長	
32	A	小田 益男	札幌	北部方面総監部 防衛部	
32	A	上山 聡	市ヶ谷A	情報本部	
32	A	川崎 誠二	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 研究課	
32	A	大塚 裕治	真駒内	325会計隊長	32期主将
32	A	竹内 利治	立川	東方航空隊本部付隊	
32	A	中村 裕亮	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 運用課	
32	A	福重 毅尚	真駒内	第11戦車大隊長	32期連絡員
32	A	平田 雄嗣	市ヶ谷A	陸上幕僚監部防衛部運用課	32期副将
32	A	大塚 和也	朝霞	研究本部	
32	A	福元 昌二	旭川	第2特科連隊	
32	A	更 雅彦	退職	奈良県警	
32	A	市来 道啓	退職	秋真逸郎税理士事務所	
32	A	小原 貞二	退職	エアークommuter	
32	A	神保 俊昭	退職	(不明)	
32	A	田口 芳郎	退職	ワールドジオスポーツ	32期副将
32	F	高橋 秀雄	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛部	
32	F	渡部 誠	岐阜	飛行実験団	
32	F	鈴木 憲	千歳	第2航空団整備補給群整備隊長	
32	F	山口 直人	市ヶ谷F	航空幕僚監部 運用課	
32	F	植村 茂己	市ヶ谷F	航空幕僚監部 教育課 術科教育班	
32	N	河上 康博	市ヶ谷N	海上幕僚監部 人事計画課	
32	N	後藤 幸英	退職	〒1500012渋谷区広尾	
32	N	松尾 研志	退職	(不明)	
32	N	澤本 武朝	退職	(不明)	
33	A	柿野 忠嗣	土浦	武器学校	
33	A	山本 貞也	勝田	施設学校研究部	
33	A	大津 勝利	市ヶ谷A	陸幕 人事部 護衛業務課	
33	A	谷口 喜一郎	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部	33期副将
33	A	池田 誠喜	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 人事部 人事計画課	
33	A	中塚 修一	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 教育訓練部 訓練課	
33	A	富樫 勇一	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 監理部 会計課	
33	A	近藤 哲也	旭川	第2特科連隊	
33	A	山本 裕一	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 整備部 施設	
33	A	細野 容司	伊丹	中部方面総監部 防衛部	
33	A	郡山 直樹	伊丹	中部方面総監部 防衛部	
33	A	久永 智	退職	〒2291103神奈川県相模原市橋本	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
33	A	川崎 英幸	退職	(不明)	33期主将
33	A	椎葉 博正	退職	芙蓉総口リース 新宿支店	
33	A	平澤 新吾	退職	(不明)	
33	F	岡本 秀文	目黒	幹部学校計画課	
33	F	荒木 俊一	府中	総隊	
33	F	高草 浩寿	三沢	北空	
33	F	御厨 広之	府中	航空総隊司令部防衛部防衛課	
33	F	新崎 秀樹	春日	西部航空方面隊司令部	
33	F	田中 勝也	退職	〒2701334印材市西の原	
33	F	増田 友晴	市ヶ谷F	航空幕僚監部 補任課	
33	N	関口 雄輝	市ヶ谷N	海上幕僚総監部 厚生課 給与室	33期副将
33	N	町島 敏幸	岩国	第81航空隊 飛行隊長	33期連絡員
33	N	渡邊 浩	大湊	大湊地方総監部 防衛部	
33	N	瀧澤 直樹	退職	〒8900035鹿児島市市田上町	
33	N	高橋 真一	退職	〒8910175鹿児島市桜ヶ丘	
33	N	西窪 純	退職	〒2480026鎌倉市七里ガ浜	
34	A	石黒 太美英	市ヶ谷A	陸上幕僚監部防衛部運用課 (コラン)	
34	A	田中 一斐	市ヶ谷A	陸幕 教訓部 教育計画課	34期副将
34	A	氷室 正一郎	退職	(不明)	
34	A	竹内 博忠	富士	装備実験隊	34期連絡員
34	A	田丸 正勝	市ヶ谷A	中央資料隊付	
34	A	平林 理	北富士	部隊訓練評価隊	
34	A	筒井 鋭達	朝霞	東部方面隊 人事課	34期副将
34	A	能井 智治	土浦	武器学校	
34	A	松永 康則	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部	34期主将
34	A	篠原 康一	霞ヶ浦	武器学校	
34	F	小笠原 卓人	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛課 防衛班	
34	F	田代 秀也	百里	7空団	
34	F	羽田 充伸	市ヶ谷F	航空幕僚監部 補給課	
34	F	河田 成治	退職	(不明)	
34	N	富山 修	退職	(不明)	
34	N	丹羽 浩良	市ヶ谷N	海上幕僚総監部 航空機課	
35	A	戒田 重雄	市ヶ谷A	中央資料隊付	35期主将 連絡員
35	A	中本 尚明	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 監理部会計課	
35	A	安藤 和幸	朝霞	東部方面総監部防衛部	
35	A	坂本 雄一	市ヶ谷A	陸幕調査部調査課	
35	A	袖之原 公郎	帯広	1対戦ヘリ 第2飛行隊	
35	A	川嶋 和之	霞ヶ浦	航空学校霞ヶ浦校	
35	A	馬淵 貴史	南恵庭	第3施設団本部	
35	A	中村 健太郎	富士	富士学校 FOC学生	35期副将
35	A	福本 博氏	富士	富士学校 普通科部	
35	A	木場 元大	札幌	北部方面総監部 人事部人事課	35期副将
35	A	瀬戸口 淳	市ヶ谷A	陸幕 装備部 装備計画課	
35	F	堀 修二郎	府中	航空門衛隊 総隊司令部 防衛部防衛課	
35	F	中澤 武志	入間	航空救難団航空救難隊	
35	N	中原 俊行	防大	防衛大 指導教官	
35	N	森泉 周	市ヶ谷N	統幕3室	
35	N	加藤 寛和	大湊	第45掃海隊 うわじま艇長	
35	N	三浦 則文	呉	しまゆき	
36	A	岩村 伝法	退職	(不明)	
36	A	福島 浩二	市ヶ谷A	情報本部 (~H17.7 米留)	
36	A	井上 勝	市ヶ谷A	陸幕人事部補任課	
36	A	介田 一	勝田	施設学校研究部	
36	A	村上 至	朝霞	輸送学校運用科	
36	A	中村 英昭	銅路	第27普通科連隊2中隊長	36期副将
36	A	藤岡 史生	市ヶ谷A	陸幕 防衛部運用課	36期主将 連絡員
36	A	矢口 鑑	京駒内	第11師司令部	
36	A	山田 武彦	市ヶ谷A	中央システム管理隊	
36	A	榎窪 正和	旭川	第2高射特科大隊	
36	A	前田 尚男	市ヶ谷A	内局 (防衛:世界平和研究所出向)	
36	A	大北 知史	市ヶ谷A	陸幕 人事部補任課	
36	A	日高 邦登	宇都宮	第12特科隊中隊長	
36	F	綿森 昭示	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛部	
36	N	鳥越 要	目黒	#53CS学生	
37	A	森安 宏徳	豊川	49普通科連隊本部 (IQ#3: H17.1出国)	
37	A	大山 剛	市ヶ谷A	技術研究本部 (3研)	
37	A	河合 寿士	十条	補給統制本部装備計画部企画課	
37	A	吉田 文三	富士	開発実験団本部	
37	A	山下 豊	東千歳	北部方面指揮所訓練支援隊	
37	A	児玉 洋	相馬原	第48普通科連隊	
37	A	平瀬 義	勝田	施設教導隊	37期主将
37	A	古田 和之	松戸	需品学校FOC	
37	A	富原 大治	北富士	部隊訓練評価隊	
37	F	中居 京	小牧	1輸空隊 第401飛行隊	
37	F	久重路 剛	千歳	第2航空団司令部施設班長	
37	F	矢坂 勝良	入間	飛行点検隊飛行隊	
37	F	塚原 敏夫	目黒	幹部学校学生	
37	N	岩本 正行	下総	第3術科学校航空機整備科	
37	N	石原 寿英	退職	(不明)	37期副将
37	N	木下 治信	目黒	#53CS学生	37期副将
37	N	鈴木 隆弘	竜飛崎	函館地区隊電飛警備所長	
37	N	高取 哲郎	厚木	厚木第3航空隊第3飛行隊 (H17.4 6~8米留:5008)	37期連絡員
38	A	水野 亮二	土浦	武器学校	
38	A	宮下 克聰	前川原	幹部候補生学校第1候補生隊	
38	A	尼子 将之	目黒	陸自幹部学校指揮幕僚課程学生	
38	A	黒子 智彰	朝霞	東部方面総監部 調査部資料課	
38	A	高岡 徳人	富士	富士学校普通科部	
38	A	奇藤 浩	板妻	第34普通科連隊	38期主将 連絡員
38	F	向井 洋史	三沢	第3航空団整備補給群整備統制班長	38期副将
38	N	高橋 俊隆	江田島	海上自衛隊幹部候補生学校教育官室航空科	
38	N	中村 裕	大湊	第25護衛隊 ちくま	
38	N	佐藤 滝大	厚木	航空プログラム管理隊付専修	
38	N	城戸 利彰	厚木	第51航空隊専修課飛行試験課程	
38	N	平井 穰治	御前崎		
39	A	長濱 誠	退職	(不明)	
39	A	井上 嘉史	北熊本	第42普通科連隊中隊長	
39	A	野本 肇	目黒	幹部学校指揮幕僚課程	39期副将

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
39	A	西田 美嗣	朝霞	東部方面総監部医務官付	
39	A	小澤 謙雄	岩手	9特科連隊 5大隊 中隊長	
39	A	井上 裕策	防大	防衛大学校 指導教官	
39	A	中村 公多朗	上浦	武器学校	39期主将
39	A	達下 裕教	習志野	第1空挺団普通科群第2普通科大隊	
39	A	遠藤 英隆	明野	陸自航空学校第1教育部	
39	A	三好 英治	立川	東部方面ヘリ隊 第1飛行隊	
39	A	杉原 正典	目黒	幹部学校指揮幕僚課程	
39	F	大塚 晋介	浜松	2術校	
39	F	久保 敦	市ヶ谷F	契約本部	
39	F	前床 泰彦	築城	8空団 飛行群 6飛隊	
39	N	鳥越 渉	退職	(不明)	
39	N	松崎 徹	十条	補本	
39	N	大松 清生	江田島	第1術科学校	
40	A	杓木 謙	滝ヶ原	訓練評価支援隊	
40	A	奈良 一志	目黒	#50CGS	
40	A	上野 洋介	朝霞	研究本部	40期主将 連絡員
40	A	永友 恒知	富士	開発実験団装備実験隊	
40	A	高田 善行	朝霞	第1施設大隊第1中隊長	
40	A	熊本 蔵	目黒	#50CGS	
40	F	守井 孝志	防大	防衛大学校 指導教官	40期副将
40	F	岩本 正臣	人間	3補	
40	F	小坂 淳	静浜	11教団	
40	F	山田 賢治	那覇	南混団司令部調査課	
41	A	鳥江 英毅	福岡	第4後方支援連隊	
41	A	小段 雄三	富士	富士学校普通科部教育課訓練班	
41	A	建部 広喜	帯広	第5施設大隊本部及び本部管理中隊	
41	A	吉村 裕樹	岩手	9特科連隊 2特科大隊 中隊長	
41	A	佐久間 博	神町	第20普通科連隊 第1中隊	
41	A	中江 宏彰	勝田	施設教導隊 第3科	
41	A	阿達 文明	習志野	第1空挺団普通科群団本部中隊	
41	A	川崎 英輔	富士	特科教導隊 中隊長	
41	A	後藤 仁志	習志野	第1空挺団	41期主将 連絡員
41	A	片上 裕文	明野	中万ヘリ隊	
41	A	小林 貴	明野	教育支援飛行隊	
41	A	綿貫 俊一	目黒	#50CGS	
41	A	石井 伸幸	富士	富士学校普通科部	
41	A	曾我辺 信久	目黒	#50CGS	
41	F	松下 尚之	人間	電実群	
41	F	三宅 英明	白川	779th 飛行群 204飛隊	41期副将
41	F	和崎 拓己	岐阜	飛行開発実験団飛行実験群航空機技術隊	
41	F	レカハシマス	留学生	フィリピン	
41	N	大川 洋史	退職	〒5203232 滋賀県甲賀郡甲西町	
42	A	井田 輝彦	防大	防大理工学研究科後期学生 電子工学専攻	
42	A	清水 優	東千歳	第7後方支援連隊補給隊	
42	A	葛西 成彦	守山	第35普通科連隊	
42	A	古賀 信之	千僧	第3後方支援連隊 武器大隊	42期主将 連絡員
42	A	永島 透	日本原	第13特科連隊第2中隊	
42	A	清水 辺大	退職	(不明)	42期副将
42	N	尾崎 公彦	呉	練習艦隊司令部副官	
42	N	上本 邦彦	舞鶴	第7護衛隊 せとぎり	
43	A	徳永 亘	立川	中央地理隊	
43	A	與藤 公彦	松山	第2混成団特科大隊	
43	A	梅原 航	明野	教育支援飛行隊	
43	A	廣瀬 繁	久里浜	久里浜113警務隊 防大連絡班	43期主将 連絡員
43	A	藤本 祐介	姫路	第3特科連隊	
43	A	松口 俊三	市ヶ谷A	情本	
43	A	古谷 尚久	国分	第12普通科連隊	
43	A	関 大吾	横浜	中央輸送業務隊	
43	F	春日 英男	那覇	第5高射群	
43	N	江畑 泰孝	佐世保	第2護衛隊群 くらま	
43	N	荒栄 拓也	江田島	第1術科学校付	43期副将
43	N	森脇 竜二	呉	第5潜水隊はるしお	
43	A	作田 雄一	御遊去		
44	A	澤田(遠藤)由紀子	東千歳	第7後方支援連隊 第2整備大隊 特科直接支援中隊	
44	A	増山 哲治	前川原	幹部候補生学校	
44	A	渡邊 俊明	川内	第8施設大隊	44期主将
44	A	八尋 幸一	退職	(不明)	
44	F	伊藤 恒和	那覇	南西航空警戒管制隊防空管制隊訓練係	44期副将
44	F	岩村 友和	那覇	83航空隊	
44	N	西尾 実	防大	防衛大学校 指導教官	
45	A	八木 新一	旭川	第2高射特科大隊第2高射中隊	45期主将
45	A	澤水 隆一	高田	第5施設群	45期副将
45	N	江森 聡	舞鶴	第3護衛隊 あまぎり	
45	N	塚 充良	呉	練習艦隊 あきぐも	
46	A	飯井 旭	高知	第2混成団施設隊	46期副将
46	A	菊地 裕紀	那覇	第1混成群	46期主将
46	A	高木 豊	信太山	第37普通科連隊	
46	A	高橋 牧子	春日井	第10後方支援連隊衛生隊	
46	F	山本 剛嗣	千歳	北部航空施設隊第2作業隊	
46	N	伊藤 和典	舞鶴	第7護衛隊 せとぎり	
47	A	松尾 崇嗣	久留米	第4特科連隊第5大隊 第13中隊	
47	A	関家 建一郎	善通寺	第15普通科連隊3中隊	
47	A	村重 亮	退職	(不明)	
47	A	久郷 一雄	退職	TBSテレビ	
47	A	田中 勝茂	座間	第4施設群363中隊	
47	A	樋口 智志	函館	第28普通科連隊2中隊	
47	A	本田 一郎	退職	(不明)	
47	A	矢野 健一	弘前	第39普通科連隊2中隊	47期主将
47	A	半澤 武久	北熊本	第8化学防衛隊	
47	N	谷口 裕昭	退職	(不明)	47期副将
47	F	溝上 雅央	浜松	教育集団付	
48	A	岩田伸太郎	前川原	第5旅団後方支援隊 輸送隊	
48	A	小林 猛	前川原	第7師団第7施設大隊	
48	A	藤原 宏匡	函館	第28普通科連隊第3中隊	

期別	要員	氏名	基地等	所属部隊等	主将・副将・期連絡員
48	A	対比地 貴行	松本	第13普通科連隊第1中隊	48期主将
48	N	飯沢 直人	呉	練習艦隊司令部付	
48	N	廣神 敏	呉	練習艦隊司令部付	48期副将
49	A	ター・ミンタイン	前川原	陸上幹部候補生学校	49期副将
49	A	中山 智晴	前川原	陸上幹部候補生学校	
49	A	永田 忠義	前川原	陸上幹部候補生学校	
49	A	西川 尚紀	前川原	陸上幹部候補生学校	
49	A	郡山 伸衛	前川原	陸上幹部候補生学校	
49	N	砂川 広樹	江田島	海上幹部候補生学校	
49	N	房野 賢一	江田島	海上幹部候補生学校	49期主将

編集後記

50期 OB 係 稲垣孝洋

合掌

平成 16 年度の春を向かえ、ここ小原台にも暖かな日々がやってまいりましたが OB の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。私ども防衛大学校少林寺拳法部は、みな向上心を持って日々の練習に励んでおります。

近年部員数の減少に頭を悩ませてきた我々ですが、15 年度には 17 名の新入部員を迎え、少林寺拳法部の新たな時代を築く第一歩を進めることが出来たと思います。今年度もその勢いをさらに増すべく、また先輩方から受け継いできた伝統のすべてを次の世代へと引き継ぎさらに高めていくためにも、まずは新入部員の獲得を第一の目標として努力していく所存であります。OB の皆様方に置かれましては、ご多忙の中とは存じますが、どうかこれからも私どもへ御指導御鞭撻の程どうかよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本誌発行のためにご指導を頂いた顧問・OB の方々をはじめ、投稿してくれた各学生に深く感謝し、編集後記とさせていただきます。

結手